

第2章 調査研究報告（概要）

「人との関わりを通して
規範意識を育てよう」（パンフレット）

人との関わりを通して

規範意識を育てよう



～「平成27年度 栃木の子ども規範意識調査」から～

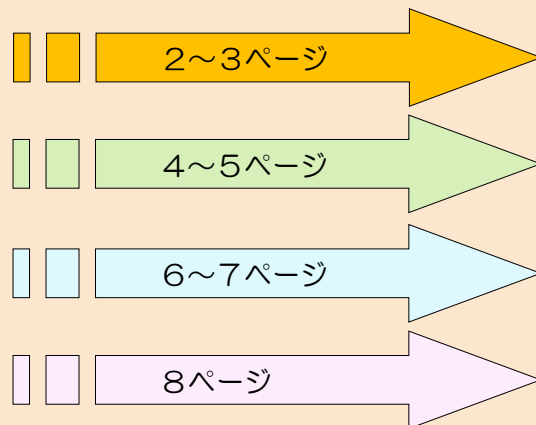
栃木県総合教育センターでは、規範意識醸成に向けての指導の在り方を考えるために、県内の小学校4年生から高校3年生までの児童生徒約3,600人を抽出し、「栃木の子ども規範意識調査」を行いました。この調査では、遵法精神、公共マナー、情報モラル、いじめを否定する意識等に関する質問への回答から、子どもの「規範意識の高さ」を把握しました。同時に、規範意識と関係が深いと想定される自己有用感、異学年交流、生活環境や生活時間に関する質問をしました。これらの質問への回答と「規範意識の高さ」との相関を分析し、規範意識醸成のための効果的な手立てについて考察しました。

本パンフレットでは・・・



栃木の子ども「規範意識の高さ」や規範意識醸成に向けての指導の在り方について、以下の視点で示します。

自己有用感の育成
異学年交流の推進
生活環境や生活時間
規範意識の経年変化



本調査における「規範意識の高さ」とは

遵法精神、公共マナー、情報モラル、いじめを否定する意識等についての28の質問に対して、「他の人がすることをどう思うか」（他者の行為についての規範意識）
「自分自身はどうか」（自己の行為についての規範意識）
の二つの視点から得た回答の合計を100点満点として把握したものです。

- ・対象者：県内の小学校4年生から高校3年生
- ・回答人数：3,588人
- ・調査方法：質問紙調査
- ・調査時期：平成27年6月下旬から7月上旬

各質問の結果については、当センターWebサイトに掲載している報告書を御覧ください。



栃木県総合教育センター 研究調査部
電話：028(665)7204 FAX：028(665)7303
E-mail：kenkyu-c@tochigi-edu.ed.jp

Webサイトを御覧ください。
本パンフレット、報告書、質問紙を掲載しています。
http://www.tochigi-edu.ed.jp/center/cyosa/cyosakenkyu/kihan_ishiki_h27/

自己有用感の育成

の視点から



規範意識をはじめとする社会性は、人と関わることによって醸成される面が多いと言われています。つまり、「人と関わりたい」という意欲を高めることが、規範意識醸成の鍵となります。

そこで、「規範意識の高さ」と自己有用感の関係を分析した結果を以下に示します。

ポイント

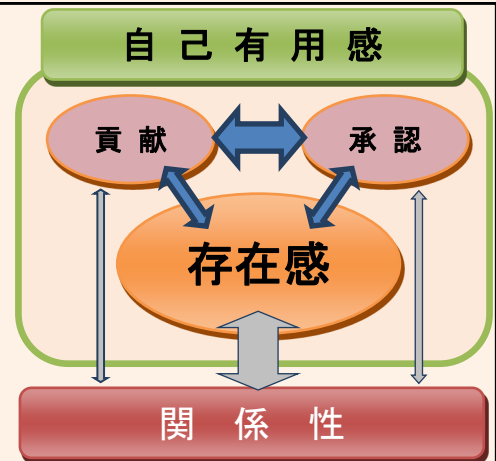
規範意識の醸成には、「関係性」を構築し、「貢献」の場を意図的に設定することで、自己有用感を育てていくことが大切です。

ところで・・・



自己有用感って何だろう？

他者や集団との関係の中で、自分の存在を価値あるものとして受け止める感覚です。



◇自己有用感は、主に「存在感」「貢献」「承認」の三つの要素から構成されます。これらの要素が互いに関連し合うことで、自己有用感は高められていきます。

- ・存在感:「他者や集団の中で、自分は価値のある存在であるという実感」
- ・貢献:「他者や集団に対して、自分が役に立つ行動をしているという状況」
- ・承認:「他者や集団から、自分の行動や存在が認められているという状況」

◇「関係性」は、安心感や被信頼感などから構成されており、自己有用感を獲得するための前提であったり、土台となったりするものと考えられます。

※「高めよう！自己有用感」(平成25年3月 栃木県総合教育センター)を御参照ください。児童生徒の自己有用感の状況を把握する評価尺度を掲載しています。

http://www.tochigi-edu.ed.jp/center/cyosa/cyosakenkyu/h24_jikoyuyokan/pdf/h24_jikoyuyokan_all.pdf



自己有用感が高まり、自分が他者や集団にとって価値ある存在であると実感できれば、「人と関わりたい」という意欲も高まるということですね。



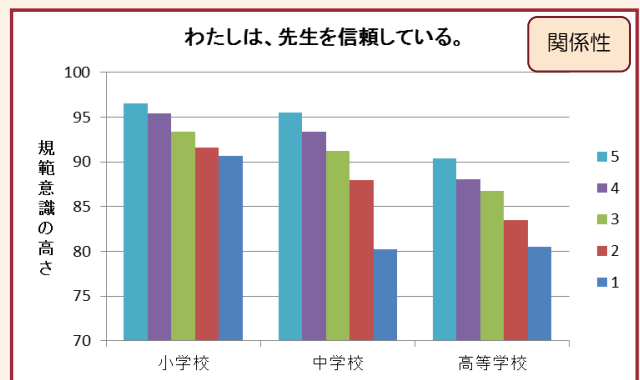
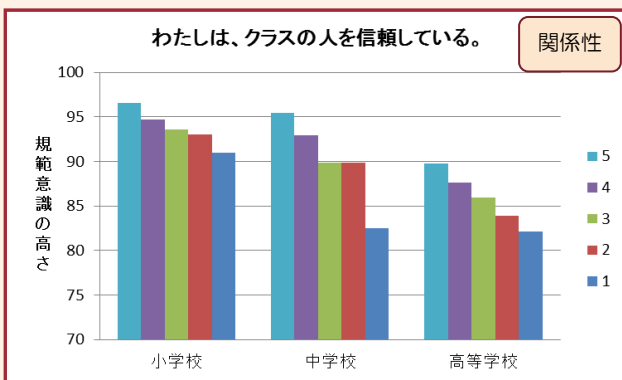
「規範意識の高さ」との相関が強いことが明らかになった 自己有用感についての質問項目

わたしは、クラスの人を信頼している。
わたしは、クラスの手伝いをするところがある。
わたしは、先生の役に立っていると思う。
わたしは、先生を信頼している。
わたしは、先生と一緒にいると安心できる。

わたしは、家の人を信頼している。
わたしは、家の人と一緒にいると安心できる。
わたしは、家の手伝いをするところがある。
わたしは、家の人から信頼されていると思う。

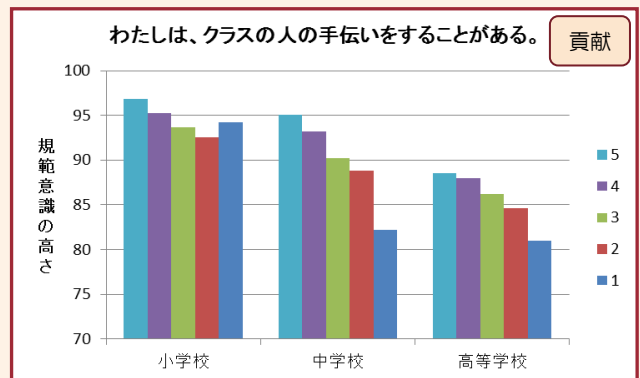


次のグラフは、上の質問項目のうち、特に強い相関が表れた質問と「規範意識の高さ」の関係を表したものです。



- 5:とてもあてはまる
- 4:ややあてはまる
- 3:どちらともいえない
- 2:あまりあてはまらない
- 1:まったくあてはまらない

グラフ中に示された質問に対して、肯定的に回答をした児童生徒は、規範意識が高い傾向が見られます。



分析の結果、「関係性」と「貢献」についての質問項目に、「規範意識の高さ」との強い相関が表れました。「関係性」は、児童生徒が自己有用感を獲得する上での前提であったり、土台となったりするものです。「信頼している」「支えられている」「一緒にいると安心できる」といった感情が、「人と関わりたい」という意欲を高め、人との関わりの中で行われる具体的な「貢献」の行為を通して、規範意識が醸成されていると考えられます。学校では、児童生徒間、児童生徒と教師間の「関係性」の構築に努めるとともに、児童生徒が「友達のために」「クラスのために」活動できる場を意図的に設定することが大切です。

異学年交流の推進

の視点から



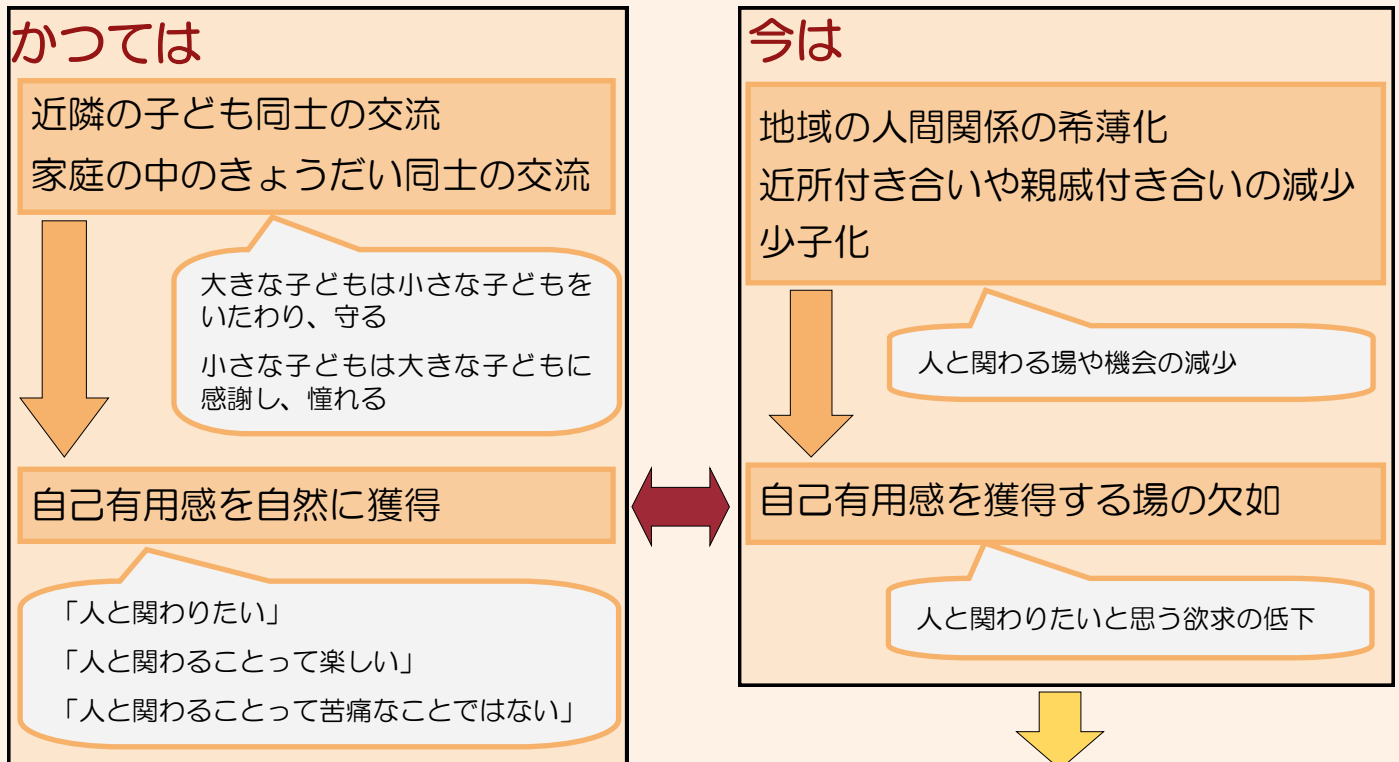
自己有用感を育むことは、児童生徒の「人と関わりたい」という意欲を高め、それが規範意識の醸成に影響を及ぼします。この自己有用感を育成し、「人と関わりたい」という意欲を高めるには、学校において、異学年交流を推進することが有効です。

そこで、「規範意識の高さ」と異学年交流の関係を分析した結果を以下に示します。

ポイント

規範意識の醸成には、異学年交流の場を意図的・計画的に設け、上の学年の人が下の学年の人を尊重する態度を育成することが大切です。

異学年交流の推進が求められる背景



意図的・計画的な異学年交流による自己有用感の獲得の必要性

「同じ地域の異年齢の子どもが集まってくる場所」という学校の特徴を積極的に活用



「規範意識の高さ」との相関が強いことが明らかになった 異学年交流についての質問項目

わたしは、他の学年の人の役に立っていると思う。

他の学年の人と一緒にいるとき、相手の気持ちを考えて行動している。

他の学年の人から注意されたとき、相手の話を素直に聞くことができる。

他の学年の人と約束したとき、相手との約束を守ることができる。

他の学年の人のものを使うとき、相手に聞いてから使う。

他の学年の人が仲間に入りたそうにしているとき、誘ってあげることができる。



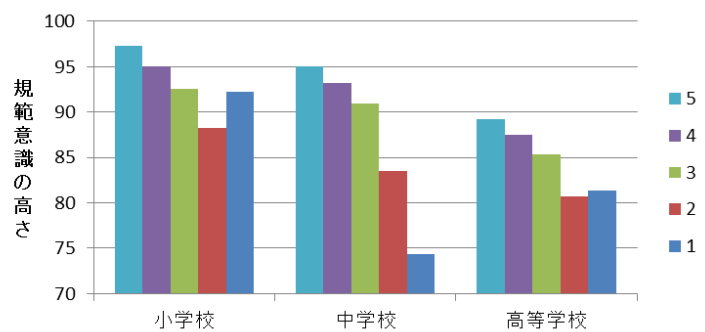
※「他の学年」とは、「下の学年」のこととして回答



「他の学年の人から注意されたとき、相手の話を素直に聞くことができる。」については、小・中・高の全てで、「規範意識の高さ」との間に特に強い相関が見られました。

- 5:とてもあてはまる
- 4:ややあてはまる
- 3:どちらともいえない
- 2:あまりあてはまらない
- 1:まったくあてはまらない

他の学年の人から注意されたとき、相手の話を素直に聞くことができる。



「規範意識の高さ」との相関が明らかになった質問項目の共通点として、「下の学年の人を尊重した関わり」という点が確認できました。下の学年の人を思いやり、大切にしたりする望ましい行為そのものにより、社会性を身に付けたという実感が高められ、規範意識が育まれると考えられます。また、そのような関わりは、下の学年の人から上の学年の人への憧れや感謝を大きなものにし、それが上の学年の人の自己有用感を高めるとともに、規範意識の醸成に関係していると考えられます。

そこで、異学年交流を計画する際には、事前に、次のようなことについて、上の学年の児童生徒が話し合う機会をつくとよいでしょう。

「下の学年の人と交流する際には、どのようなことに気を付けたらよいでしょうか。」

「下の学年の人は、どのように接してくれたらうれしいと思いますか。」



生活環境や生活時間

の視点から



日常生活の様々な場面に、規範意識を醸成するためのヒントがあります。そこで、「規範意識の高さ」と生活環境や生活時間の関係を分析した結果を以下に示します。

ポイント

規範意識の醸成には、次のような「人との関わり」が大切です。

- ・子どもに接する大人が、望ましい姿を示すこと
- ・子ども同士に、人と人との直接的な交流をさせること

規範意識と生活環境

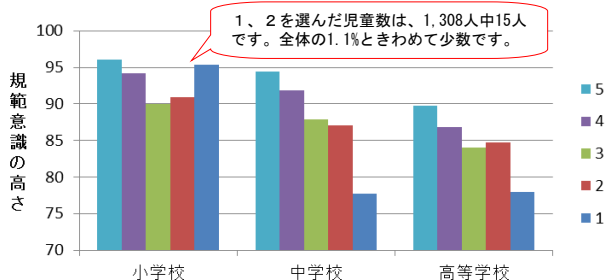
「規範意識の高さ」との相関が強いことが明らかになった生活環境についての質問項目

先生は、大切なことを守らないときは厳しくしかってくれる（指導してくれる）。
先生は、みんながより良く生活ができるように考える時間をとる。
わたしのクラスでは、教室の床にゴミが落ちていない。
わたしの学校は、先生同士が協力している。
わたしは、家の人に「おはよう」「おはようございます」などのあいさつをする。
わたしは、家庭学習を言われなくても自分からする。
わたしは、時間を守ることができる。
家の人には、意見が合わないときでもわたしの話を聞いてくれる。

上の質問項目のうち、特に強い相関が表れた質問と「規範意識の高さ」関係をグラフで示します。

- 5:とてもあてはまる
- 4:ややあてはまる
- 3:どちらともいえない
- 2:あまりあてはまらない
- 1:まったくあてはまらない

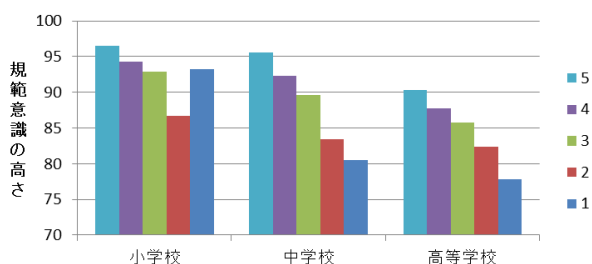
先生は、大切なことを守らないときは厳しくしかってくれる。



「先生は、大切なことを守らないときは厳しくしかってくれる。」に肯定的回答をした児童生徒は、規範意識が高い傾向が見られます。

問題行動に対して、教師が毅然とした対応をすることで、児童生徒は善悪の基準や、きまりやモラルの大切さを学ぶと考えられます。

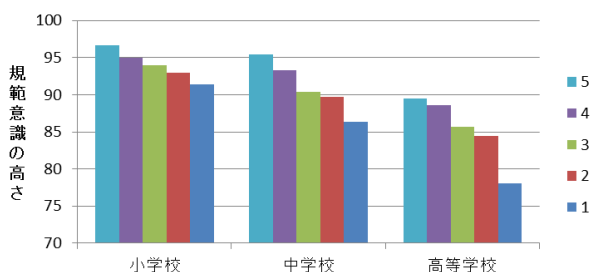
わたしの学校は、先生同士が協力している。



「わたしの学校は、先生同士が協力している。」に肯定的回答をした児童生徒は、規範意識が高い傾向が見られます。

児童生徒にとって身近な大人である教師が協働することは、人との望ましい関わり方を示すことになり、児童生徒の他者や集団と関わろうとする意欲を高めることにつながると考えられます。

家の人は、意見が合わないときでもわたしの話を聞いてくれる。

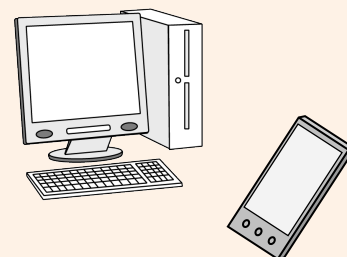


「家の人は、意見が合わないときでもわたしの話を聞いてくれる。」に肯定的回答をした児童生徒は、規範意識が高い傾向が見られます。

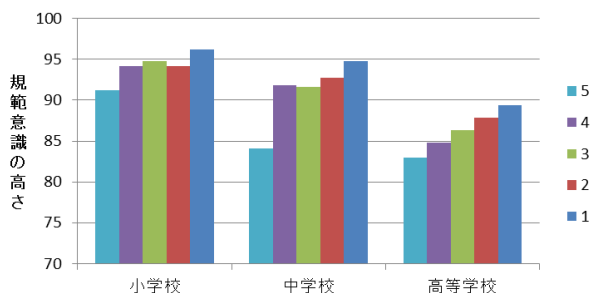
大人が子どもの話を傾聴することにより、子どもは大切にされているという実感を持ち、思いやりをもって他者と接したいとの意欲を高め、信頼の関係性が形成されると考えられます。

規範意識と生活時間

今回の調査では、「パソコン、スマートフォン、ゲーム機などで、他者と交流している時間」と「規範意識の高さ」との間に強い負の相関があることが明らかになりました。



1日のうちで、パソコン、スマートフォン、ゲーム機などで、他の人と交流している時間は、平均してどのくらいですか。



小・中・高の全てで、情報機器を用いて他の人と交流している時間が短かった児童生徒ほど、規範意識が高い傾向が見られます。

情報機器に頼らず人と人との直接的な人間関係を充実させることが、規範意識の醸成に強い関係があると考えられます。

- 5:4時間以上
- 4:3時間以上4時間より少ない
- 3:2時間以上3時間より少ない
- 2:1時間以上2時間より少ない
- 1:1時間より少ない

「ネットトラブル事例集」(平成28年3月 栃木県総合教育センター)を御参照ください。
本県児童生徒のネットトラブルの現状と、具体的な事例を基にした、未然防止に向けた指導の在り方を掲載しています。

http://www.tochigi-edu.ed.jp/center/cyosa/cyosakenkyu/h27_moral/

規範意識の経年変化

の視点から



栃木県総合教育センターでは、「栃木の子どもの規範意識調査」を5年ごとに行ってきました。「規範意識の高さ」について、過去の調査との比較を以下に示します。

ポイント

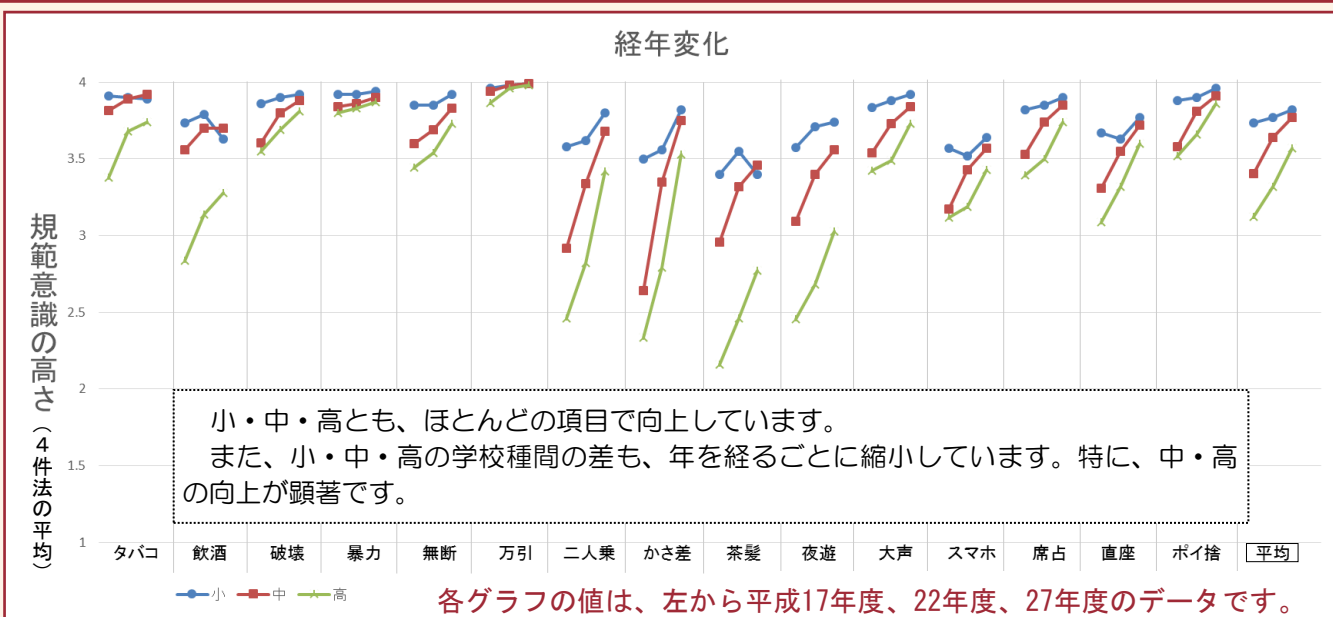
栃木の子どもの規範意識は向上しています。
小・中・高の学校種間の差が縮小しています。



GOOD!

次のグラフは、以下の項目について、「他の人がすることをどう思うか」を問う質問への回答の経年変化を表しています。

※過去の調査では、「自分自身はどうか」の視点での質問はしていません。



タバコを吸う。(タバコ) お酒を飲む。(飲酒) ものを壊したり、落書きしたりする。(破壊)
人に暴力をふるう。(暴力) 人のものを無断で使う。(無断) 万引きする。(万引)
自転車で二人乗りをしたり横に並んで走ったりする。(二人乗)
自転車のかさ差し運転をする。(かさ差) 茶髪にしたり化粧したりする。(茶髪) 深夜出歩く。(夜遊)
バスや電車の中、お店などで、まわりに人がいるときに、大声で話したり騒いだりする。(大声)
バスや電車の中、お店などで、まわりに人がいるときに、スマートフォンなどで話す。(スマホ)
バスや電車の中で、座席を必要以上にとる。(席占)
電車の中や店先などで、しゃがみこんだりじかに座ったりする。(直座)
ごみをポイ捨てしたり置きっぱなしにしたりする。(ポイ捨)



各項目の末尾の()内は、
グラフに示す略称です。

子どもと関わる大人へのメッセージ

☆人と関わりたいという思いを高め、人と人との直接的な交流をさせることを通して、子どもの規範意識を育てていきましょう。

☆大人が望ましい姿を示して、子どもの規範意識を育てていきましょう。

☆栃木の子どもの規範意識は向上しています。自信をもって子どもに接し、正しいことを堂々で行える子どもを育成していきましょう。